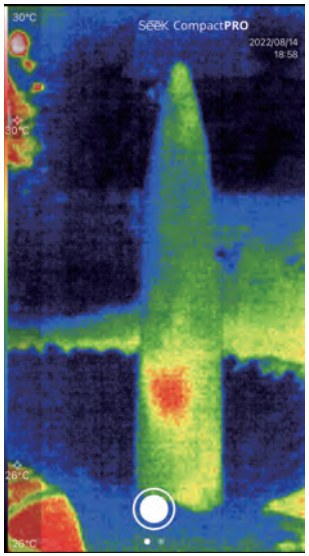
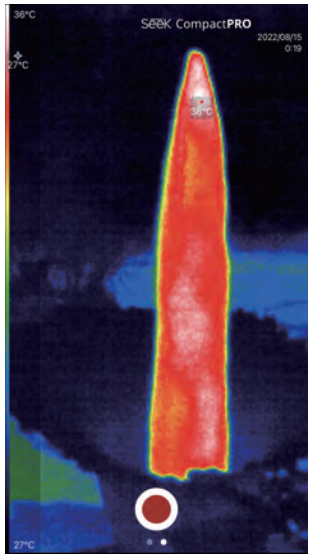
ショクダイオオコンニャクの開花時の変化

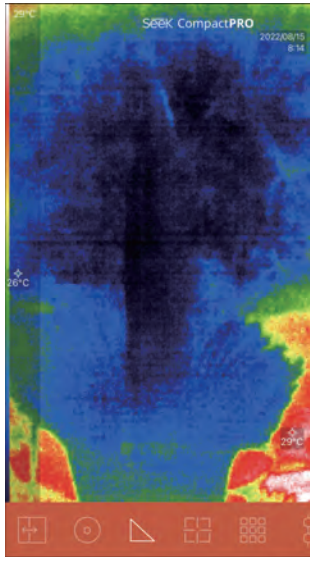
1日目 付属体が発熱して強烈な腐肉臭を拡散し、シデムシの仲間を誘引。
雌花群が成熟し、受粉可能な状態となる。



付属体の発熱開始
（18:58）

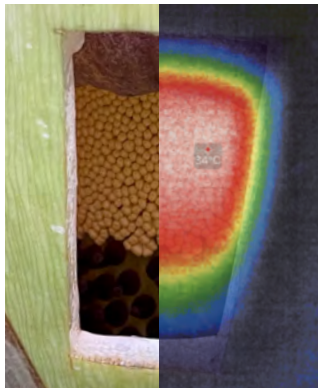


最高温度（36.4℃）
20:20 ～ 2:08 は 36℃前後

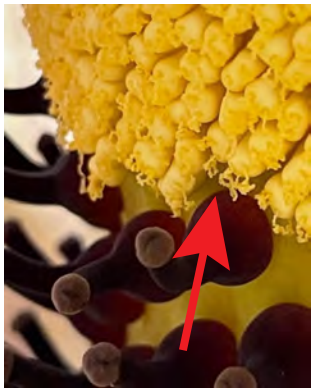


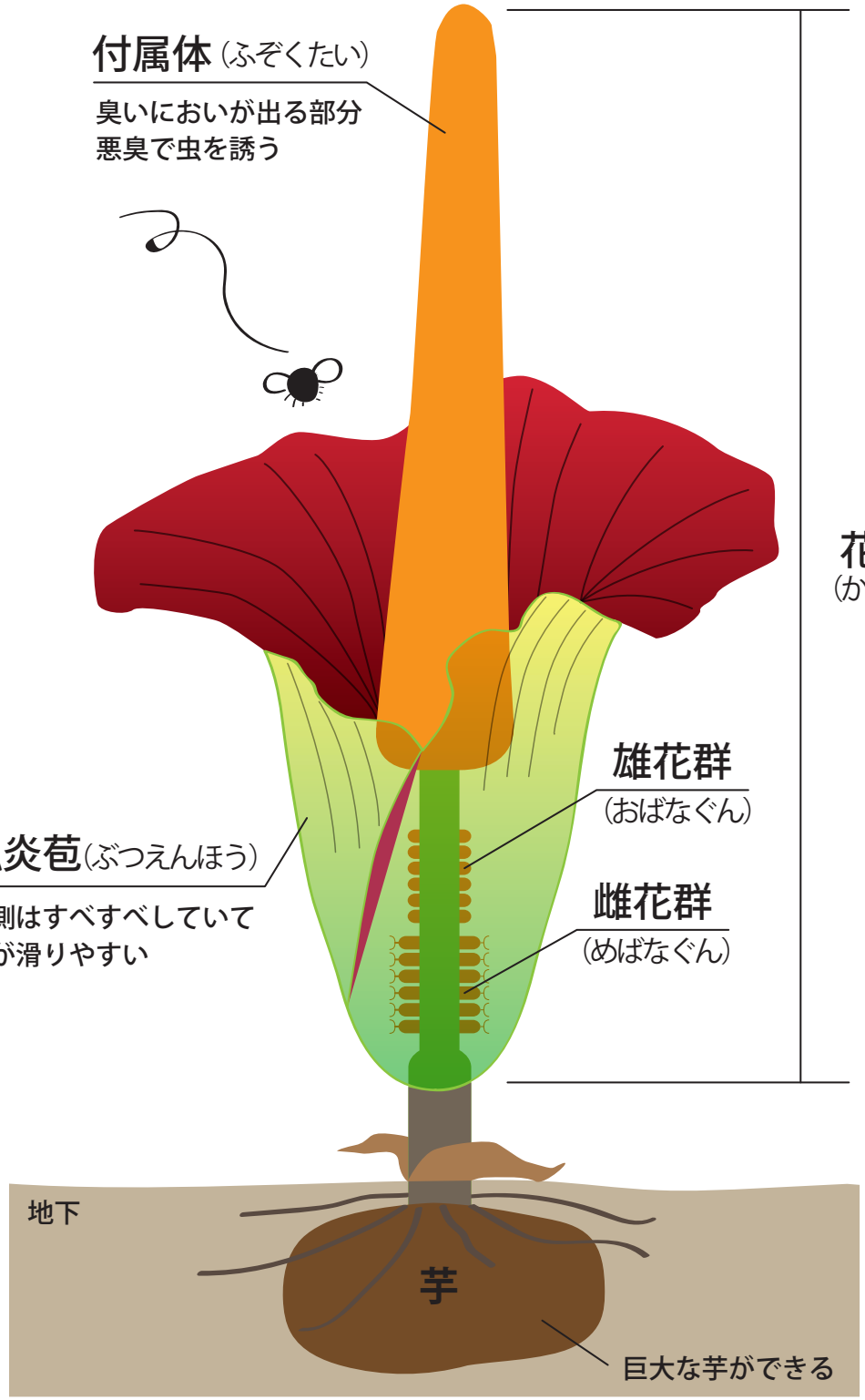
発熱終了（撮影 8:14）
3;00 には 30℃まで低下

2日目 雄花群付近が発熱。雄花が花粉を出し、花に入ったシデムシに花粉を付着させて別の花に運ばせる（腐肉臭は少ない）。



雄花群の発熱（34℃）
仏炎苞に窓を開けて観察
（上部の黄色い粒状の花が雄花、下部の赤い粒状の花が雌花です。）



雄花が花粉を放出（20:33 確認）
粘性のある花粉が連なって出る。

ショクダイオオコンニャクの受粉を行うアカモンオオモモブトシデムシ（Diamesus osculans）
"Diamesus osculans" ©L. Shyamal
(Licensed under CC BY-SA 2.5)
【URL】https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/e/e8/SilphidaeKanara.jpg